

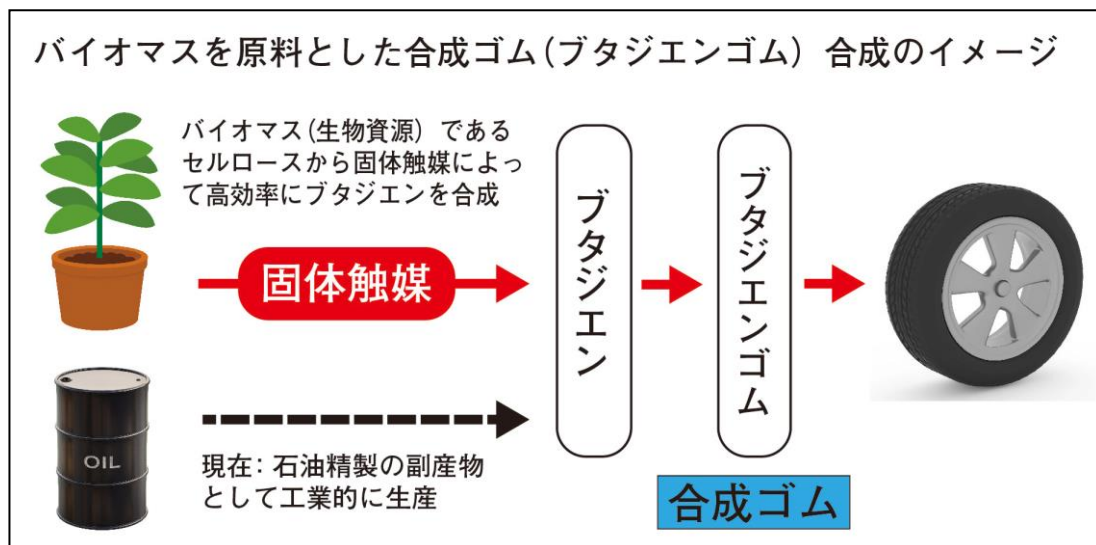
2015年7月29日

横浜ゴム、東京工業大学 バイオマス为原料とした合成ゴム（ブタジエンゴム）の新技术開発

横浜ゴム（株）は、国立大学法人東京工業大学との共同研究により、バイオマス（生物資源）であるセルロース（植物繊維の主成分である糖）から直接ブタジエンを合成する触媒の開発に成功した。ブタジエンは自動車タイヤなどの原料となる合成ゴム（ブタジエンゴム）の原料として使用される。現在、ブタジエンは石油精製の副産物として工業的に生産されているが、新技术の開発によって、今後石油への依存度が低減でき、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素削減に貢献できる。

横浜ゴムと東京工業大学は、2012年からバイオマスから合成ゴムを作り出す共同研究を進めてきた。東京工業大学（大学院総合理工学研究科 馬場俊秀教授）は糖から直接ブタジエンを合成する触媒の研究を進め、工業的に適した固体触媒を使って高効率にブタジエンを合成することに成功した。今後、量産化に向けた触媒設計を進め、2020年代前半を目標に実用化を目指す計画。ブタジエンゴムは、合成ゴムの中でもスチレン・ブタジエンゴムに次いで使用量が多い。このため新技术の開発は、化石燃料の使用削減への大きな効果が期待できる。

東京工業大学は1881年創立の理工系総合大学。持続可能な社会の実現に向け、バイオマスの利用を始めとした様々な基礎研究を推進している。横浜ゴムはタイヤ・ゴム製品の総合メーカー。カーボンニュートラル（排出される二酸化炭素＝吸収される二酸化炭素）な植物由来のバイオマスを活用する研究に積極的に取り組んでいる。



このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：田中
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570



このリリースに関するお問い合わせ先
東京工業大学 広報センター
Email: media@jim.titech.ac.jp
TEL:03-5734-2975 FAX:03-5734-3661